

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	311広域交流拠点の整備		
施策のねらい (めざす姿)	新鎌ヶ谷駅周辺地区は、交通結節点として、千葉県北西部地域を代表する躍動感と魅力ある交流拠点となっています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	若泉 哲也

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、新鎌ヶ谷地区の魅力を高め、まちの賑わいを創出するため、住民、企業、行政が一体となってかつ継続的なまちづくりの活動を行う。	③改革・改善内容	新京成線連続立体交差事業の完成も見据え、南北自由通路の整備を含めた、新鎌ヶ谷駅を中心とする回遊性の確保のための施策を計画的に進めていく。また、東京10号線延伸新線跡地についても、引き続き土地活用のあり方と取得に向けた検討を行う必要がある。
②①に基づく取り組み結果	まちづくり組織の立ち上げには至らなかったが、地域住民主体によるまちづくり活動に向けた協議が行われた。また、新鎌ヶ谷地区の魅力を高めるため、東京10号線沿線新線跡地利用について、土地活用案の検討を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷駅周辺地区	意図(対象をどうするのか)	快適性・安全性・利便性が確保され、賑わいのある地区を創造する。
②施策の概要	新鎌ヶ谷駅周辺地区が魅力と活気にあふれる中心市街地として形成されるよう、土地利用の推進や通路等の整備を行う。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の連続立体交差事業の完了を見据え、南北自由通路を含め駅を中心とする回遊性の確保が可能となっていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	まちづくり組織の立ち上げには至らなかったが、住民主体で活動の実施に向けた積極的な議論に繋がった。また、東京10号線延伸新線跡地については、土地活用の可能性を検討し、土地活用イメージとして取りまとめた。各指標については上昇となった。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数(1日あたり)	人	95,703	97,619	99,003	100,000
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	件	234	236	245	270
	iii						
③基本事業成果指標	i	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業進捗率	%	27.0	49.0	51.0	99.0
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	件	234	236	245	270
	iii						
	iv						
	v						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	23,204	31,066	(単位:円)		285 円	26,023	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	南北自由通路の整備を含めた駅を中心とする回遊性の確保については、新京成線連続立体交差事業との連携や、関係機関との協議を密にし、計画的に事業を進める必要がある。また、東京10号線延伸新線跡地についても、引き続き土地活用のあり方と取得に向けた検討を行う必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	地域のまちづくり活動については、一定の成果もあり、さらに指標となる事業所数も増加した。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業		
④上記方向性の説明	新京成線の連続立体交差事業の完了を見据え、南北自由通路を含めた駅を中心とした回遊性の確保を目指し、快適性・安全性・利便性が確保された賑わいのある地区を創造する必要がある。このため、東京10号線延伸新線跡地についても、引き続き土地活用と取得に向け検討を行う必要がある。		